

令和7年度 第3回学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月19日（水）14時20分から16時00分まで
- 2 開催場所 和田小学校 視聴覚室
- 3 出席委員 安藤 小ゆり、太田 優子、神谷みち子、齋藤 拓雄、鈴木 剛司
鈴木 三雄、早川 智美、林 實
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 横井 靖二（校長）、米山 由紀子（教頭）、中西 伸（主幹教諭）
小粥 万祐子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 小粥 万祐子
- 8 会長挨拶
- 9 校長挨拶
- 10 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めるところ、神谷委員を推挙する旨の発言
があり、全員意義なくこれを承認した。
- 11 前回会議録確認
- 12 協議事項
(1) 授業参観をして
(2) 子供たちのよいところ・課題（グループ協議Ⅰ（委員1~2名、職員3~4名））
(3) 主体性を育むための具体的な手立てについて（グループ協議Ⅱ）
(4) 熟議についての感想・意見交換

13 会議記録

司会の米山教頭より、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、
会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 会議前に行った授業参観をもとに、子供たちのよいところや課題について意見交換をした。
- (2) 子供たちのよいところ・課題（グループ協議Ⅰ）
○【1グループ：安藤委員・伊藤・松下】
・授業で自由に発言し合う姿が見られた。
・楽しいクラスを作るために自分たちにできることは何か考えることができる。
・活動をするときに動くことができること動くことができない子に2極化している。
・どのように主体的に活動したらよいのか方法が分かっていない。

○【2グループ：神谷委員・由季・平田・渡邊】

- ・進んで挨拶ができる。
- ・外で元気よく遊んでいる。外遊びが大好きである。
- ・学習に対して受動的なときがある。
- ・課題を頑張って進めるが、途中でやめてしまう姿が見られる。

○【3グループ：鈴木剛司会長・太田・澤根・吉政】

- ・体育の授業で、作戦をチームの仲間と意欲的に考える姿が見られた。
- ・下級生に優しく接することができる。
- ・自分で考えて行動することが難しい。
- ・失敗を恐れ、決められたパターンでしかできない様子が見られる。

○【4グループ：太田委員・早川委員・戸澤・林・堀田】

- ・友達の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。
- ・自分の役割を進んで行うことができる。
- ・自己主張が強くなってしまうことがある。

○【5グループ：斎藤委員・島・瀧口・馬塚】

- ・困っている子を助けてあげることができている。
- ・リコーダーの練習で教え合っている姿が見られた。
- ・一人で考えて意見をまとめている姿が見られた。
- ・最後までやりきることができない子がいる。

○【6グループ：鈴木三雄委員・真田・一ノ瀬・大石】

- ・授業で、手を挙げて声を出して先生の質問に答えている姿が見られた。
- ・自分の仕事を責任もって行うことができている。
- ・授業と違うことをしている児童が見られた。
- ・言われたことを素直にやるが、自分で改善できる子は少ない。

○【7グループ：林委員・岡本・澤柳・明日佳・石川】

- ・授業にまじめに取り組んでいる。
- ・集団の目標に向かって自ら努力することができる。
- ・読書習慣が少ないかもしれない。
- ・すべてのことにおいて、自分事として考え発言したり、行動したりする子とそうでない子の個人差が大きい。

(3)主体性を育むための具体的な手立て（グループ協議Ⅱ）

○【1グループ：安藤委員・伊藤・松下】

- ・主体的に活動するとは、どういうことなのか、子供も先生も一緒に話し合う。
- ・子供たちに成功体験を積ませる。（自分の役割・活躍できる場を与える。）
- ・チャレンジできる場を作り、目標を立てて挑戦させ、成功体験を積ませる。
- ・ルールの意義も考えしていく。

○【2グループ：神谷委員・由季・平田・渡邊】

- ・学習では、興味をひく導入をする。目標の明確化をする。
- ・一人一人をしっかりと観察し、適切な声掛けをしていく。ほめていく。
- ・ぴかぴかチェックを見直して、生活習慣の改善を図る。

○【3グループ：鈴木剛司会長・太田・澤根・吉政】

- ・学習内容を子供たちの興味・関心のあるものにする。また、個々のレベルに合った内容の工夫をする。
- ・失敗を恐れて進めない子もいるので、失敗をしていい場所という環境作りをする。
- ・「ほめて伸ばす」をベースにメリハリのある指導をする。

○【4グループ：太田委員・早川委員・戸澤・林・堀田】

- ・失敗しても大丈夫という雰囲気づくりをする。
- ・課外活動は意欲的に取り組めているので、自分たちのクラス・学校をよりよくしていくという自主的な活動を取り入れていく。（学年集会や学級会など自分たちで考える機会を作る。）
- ・子供が安心を感じられる学級づくりをする。
- ・子供が達成感や成功体験ができるように教員がサポートする。

○【5グループ：齋藤委員・島・瀧口・馬塚】

- ・学習ツール（タブレット・スプレッドシートなど）の活用をして、子供たちのモチベーションを上げることができる工夫をしていく。
- ・自主的な活動を取り入れていく。クラス全員が学級に参画できるようにする。
- ・個のよさを認める場をつくる。
- ・安全に気を付けることができない現状→子供が実体験を話し合うことができる機会をつくる。
- ・目標を立てて、達成できる喜びを味わわせる。（サポートをして、絶対達成することができるようする。）

○【6グループ：鈴木三雄委員・真田・一ノ瀬・大石】

- ・教えるべきこと、しつけなど、基礎基本の徹底をする。
- ・思いやりのある行動をさせる。相手の発言を静かに聞くことができるようする。
- ・大人が、子供のよい表れを認めていく。

○【7グループ：林委員・岡本・澤柳・明日佳・石川】

- ・家庭と連携をしていく。
- ・地域全体で見守る積極的な声掛けをしていく。
- ・休日の活用をしていく。

(4)前半の熟議について感想・意見交換

- ・我々委員も先生方も見ている点や思いが同じで心強く感じた。 (神谷委員・鈴木委員)
- ・子供の貧困が進んでいて、子供の二極化（色々な体験が出来る子と出来ない子の格差）が進んでいる。失敗も含め、様々な体験をする事で自己肯定感を育む事が大事なので、民生委員の私たちも、何かサポートできる事はないか、と感じた。 (安藤委員)
- ・考え方方が小さくまとまっている子が多い反面、できる子はどんどんモチベーションも上がり、なんでもできる。できない子を、どのようにしていってあげたらよいのか考えたい。 (鈴木委員)
- ・低学年のうちに、ルール・マナー、基本的な事を身に付ける事が大事だと思う。大切なことは、大きくなっても変わらず、続いていく。いじめが、2年生をピークに下がっていくのは、2年生ぐらいに善悪の判断がついてくるからという記事を読んだことがある。善悪の判断を教える場については、学校はもちろん必要だが、まずは家庭教育が大事だと思う。 (鈴木委員)
- ・小学生に主体性は難しいのでは、と思ったが、斬新でいいなと感じた。 (齋藤委員)

14 その他

◎学校支援活動について

- ・神谷委員より令和7年度2学期前半のボランティア実施状況の報告があった。

◎諸連絡

- ・次回の学校運営協議会は令和8年1月15日（木）に開催するとの報告があった。

以上